



大球磨川

至誠 向学 鍛練
夢を持ち自ら学ぶたくましい生徒の育成
八代市立第三中学校
学校だより第3号
令和3年6月24日

「人と人をつないでいくもの」

校長 稲岡博信

6月は「いじめ根絶及び心のきずなを深める月間」です。人権集会で次のような話をしました。『父親と息子が散歩中に交通事故に遭い、父親は乗用車にはねられて即死でした。息子は救急車で搬送されました。搬送された病院の医師がその子を見て叫びました。「この子は自分の息子だ」と。この医師と息子の関係は？』・・・医師を男性（父親）と思い込んでいた人は？と首をかしげたことでしょ。医師はその子の母親だったわけです。私たちには、案外この思い込みがあると思います。これがものを見る目を鈍らせます。偏見を生みます。同じように知らないことも、ものを見る目を曇らせます。「無知は偏見を生み、偏見は差別を生む」と言われます。物事を正しく理解することなくして、いじめや差別はなくならないと思います。三中でも毎年いじめ事案を認知しています。子供たちは、「差別」をどうとらえているのでしょうか。家庭では差別をどう教えておられるのでしょうか。差別とは、最終的には「人と人との関係を切っていくこと」になると思います。では、「差別をなくしていくこと」は、「差別」と反対のことをしていけばよいと考え、「人と人をつないでいくもの」になると思います。学校では、人権問題学習を丁寧にすることが、固定化された人間関係を崩し、仲間と仲間の正しいつながりをうみだしていくと考えています。「一番人に言いたくないことが、一番人にわかってほしいこと」ということを被差別部落出身の方が言われるように、子供たちにとっても、一番分かってほしいと思うことを素直に話せる仲間がいること、安心できる学級にすることで、自分が必要とされているという自己有用感が育まれるのではないかと思います。質の高い集団づくりを目指しながら、いじめ・差別のない三中づくりに努めてまいります。

心のきずなを深める月間

「心のきずなを深める月間」の取組として、本校では、「教育相談」「特別支援教育理解授業」「学級人権宣言づくり」などの取組を行いました。

学級人権宣言づくりでは、各クラスで、今のクラスの現状や、どのようなクラスにしたいかなどをじっくり話し合いながら人権宣言をつくりました。そして、6月22日に行われた人権集会で、発表しました。

特別支援教育理解授業では、八代市教育サポートセンターの高橋佳奈子アドバイザーをゲストティーチャーに迎え、学年ごとにテーマをもって行いました。

教育相談では、担任を中心に個別に相談活動を行い、いろいろな悩み、困り感の解消に努めました。

今後も、一人一人が、安心して楽しく過ごせる学校づくりに努めていきたいと思います。ご家庭でも気になることがありましたら、学校までご相談ください。

生徒会活動頑張っています

生徒会執行部や専門委員長・副委員長を中心に朝のあいさつ運動を毎日行っています。また、水曜日は「ボランティア活動の日」と位置づけ、学校周辺のゴミ拾いを行っています。今年度の生徒会スローガンは「Let's Challenge ～我らの明日は今日を超える～」です。それぞれの取組、頑張りが子供たちの成長につながっていると感じます。自主的な取組の輪がどんどん広がり、地域と共にある三中、地域に愛される三中となるように今後も活動していきます。



お知らせ

26日（土）、27日（日）は八代中体連大会です。感染防止の対策上、観戦者の制限など通常通りの開催とはなりませんが、3年生にとっての最後の大会です。1年以上にわたり難しい環境の中でも頑張ってきた成果を精一杯発揮し、思い出に残るすばらしい大会にしてほしいです。がんばれ！三生生！